

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第75号

H25.12.23発行



東京五輪を見据える二人

Mako Fukube

福部真子／西塔拓己

Takumi Saito

広島陸上界の系譜を受け継ぐ

福部 真子

女子100mH

広島皆実高校

Mako FukuBe

プロフィール | 福部 真子(ふくべまこ)165cm/55kg
1995年(平成7年)10月28日生まれ/府中中学校-広島皆実高校
自己ベスト | 100mH: 13.57

西塔 拓己

男子20キロ競歩

東洋大学

Takumi Saito

プロフィール | 西塔 拓己(さいとうたくみ)176cm/60kg
1993年(平成5年)3月23日生まれ/能美中-広島商業高校-東洋大学
自己ベスト | 10000mW: 40:11.71(2012.10 国体)=ジュニア日本記録
20kmW: 1:21:01(2012.2 日本選手権競歩)

2013年夏。重圧をはねのけた広島の若き精鋭は、全国で、そして世界で心身共に成長した姿を示した。インターハイ女子100m障害で3連覇を達成した福部真子(皆実高)と、世界選手権男子20km競歩で6位入賞の西塔拓己(東洋大、広島商高出)。7年後の東京五輪を見据える2人が、新たな夢の舞台への序章をめくった。



重圧の中での同一種目3連覇

今年のインターハイ出場者で唯一、3連覇が懸かっていた福部。自己ベストで迫る2年生ハードラーらとの対決に注目が集まった。しかし、決勝のスタートは、「ライバル」がフライングによる失格で姿を消すなど2度のやり直しという波乱。福部は出だしで遅れて「パニックになった」が、リズムカルなハードリングは健在だった。2台目で抜け出すと、持ち味である後半の伸びを発揮して13秒57の自己最高をマーク。2位に0秒26差の圧勝劇を演じた。広島県勢初の同一種目3連覇。それまでの苦しかった経験が、フィニッシュラインを切った瞬間に涙となってあふれ出た。

高校2年の夏から相次ぐ故障で会心の走りができず、悩みは尽きなかった。「なんで2連覇したんだろう」。重圧がのしかかった。人前で走るのが恥ずかしく、怖いと感じるようになり、地区新人大会は欠場。「陸上から逃げた」。どん底の時期を支えたのは、悩みに耳を傾けてくれた樋口裕志監督や家族、チームメイトたちだった。

高校最後のシーズンは14秒台が続くこともあった。それでも「何でだろうと思ったけど、焦ら



ず、じっくりいこうと心掛けた」。早くから照準をインターハイに絞って集中していた。プレッシャーをはねのけたファイナルで、ハードルの高校女王は「人生が変わった大会だった。楽しかった」と振り返った。

*

立ち向かう心の強さが足りない

世界選手権男子20km競歩で、五輪、世界選手権を通じて日本勢最高の順位に到達した西塔も己の内面と戦った。

2012年のロンドン五輪。大会前から眠れない日々が続いた。スタート直前は緊張感に思考も体も支配された。「心の底からびびった」という。結果は25位。世界の最高峰のレースに立ち向かう心の強さが足りないと感じた。

「自分のレースをしたい」。苦い思い出を生かし、海外選手との合同練習でリラックス法を学んだ。筋力トレーニングも積極的にこなして滑らかな歩形に磨きかけた。オリンピックの自信が心を強くし、8月の世界選手権が近づいても睡眠時間が足りなくなることはなかった。



初めて挑んだ世界選手権。序盤から飛び出したレースでは世界の強豪に臆することなく堂々と渡り合い、一時は4位まで歩を進めた。競技場に戻り、トラックで順位を落としたものの1時間22分9秒の6位でフィニッシュ。20歳の大学生は日本の第一人者へと躍り出た。

約2カ月後の東京国体成年男子1万m競歩で、さらに自身の成長を見せつけた。世界選手権の代表5人がそろった「オールスター戦」。5200m過ぎから前回覇者の鈴木雄介(富士通)との一騎打ちに持ち込むと、約15秒差の40分2秒25で先着した。ラスト1周で抜かれた1年前のリベンジを果たした。「トラックは苦手」と答えながらもロードでのさらなる飛躍に期待を抱かせた。



*

夢のファイナルステージへ

2020年東京五輪で福部はメダル獲得という夢のシナリオを描く。その4年前にあるリオデジャネイロ五輪は、海外の強豪選手の速いリズムを感じる大会と位置づける。西塔も「リオデジャネイロまであったという間。オリジナルの強さを追求しないと世界の選手には勝てない」と、東京での活躍を見据えた強化策を練る。

将来の自身の姿について、福部は「みんなに感動を与えられる選手になりたい」。西塔は「芯を持って積極的なレースをしていく。そうしないと自分も納得できない」と語った。夢のファイナルへ上りつめていく2人のストーリーは、無限の可能性を秘めている。(K)

October
10/4
Fri
1日目

惜しい8位渡辺(九州共立大)

最終投で、60mラインに到達し、「やったあ!」と思ったら、バランスを崩し手をついてしまい逆転しての上位入賞はできなかった。渡辺には、ふるさと選手として来年もがんばってもらいたいと期待している。少年勢は、小吉川が翌日の決勝へ進出を決定した以外は、今ひとつ、チーム広島として応援が盛り上がりがない1日だった。

少女B走幅跳出場の桑畑(広島皆実高)が1回目で自己記録へあと3cmで、決勝進出へ期待したが、気合いだけでは記録を伸ばせず終わった。



▲渡辺茜選手

少年ベテランがんばる

October
10/5
Sat
2日目



▲(左から)廣田雄大選手、池田康雄選手、野田悠斗選手 ▲小吉川志乃舞選手

まずは、36才でも日本トップでがんばる池田(チームビックストーン)のやり投。4投目でポイントをつかみ5位へ、5投目に記録を大きく伸ばし3位入賞を果たした。競技力向上への意欲は、若い選手も見習ってもらいたいものである。少年ではランキング10位以内に入っていない2選手がやってくれた。

A走幅跳、廣田(広島井口高)が3回目に大ジャンプでベスト8に残り、3位まであと4cmだったので、後半意欲的に記録を狙っていった。記録を伸ばすことができなかったが立派な7位入賞。B200m、野田(盈進高)が予選は楽勝、準決は少し硬さが見られたが決勝進出。決勝では念願の21秒台を出して5位入賞。今後の活躍に期待したい。

あと、女子B1500m、小吉川もよく粘り5位入賞。今後の女子駅伝もがんばってもらいたい。

October
10/6
Sun
3日目

西塔、意地の優勝、まさかのリレー男女とも敗退

西塔は、世界選手権・日本インカレの疲れから、体調を崩し練習ができていない状態での出場が入賞することが精一杯と本人は言っていたが、試合が始まると徐々に調子を上げ、6000mすぎから先頭に立ち、逃げ切って、みごとな県新記録での優勝。世界で勝負しようとする西塔の姿勢には、見習うものがあった。

7名出場した少年選手で自己新記録2名。インターハイ入賞の選手がまさかの記録なし、少年に昨日の勢いがみられない1日となった。

最後はリレー。女子は木村がケガして急速メンバー変更して試合に臨んだ。慎重なバトンパスであと少し足りず、逆に攻めの姿勢で臨んだ男子は、アンカーが引っ張りすぎてバトンが渡らず、来年へ向けリベンジを誓う日となった。



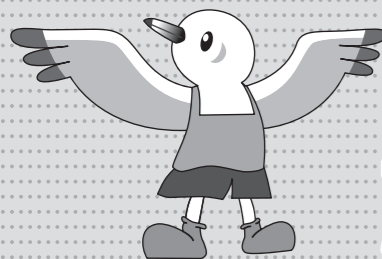
▲堂々優勝の西塔拓己選手



▲男子リレーメンバー(左から)北村拓也選手、三浦碧葉選手、池内雅貴選手、野田悠斗選手



▲女子リレーメンバー(左から)後津沙紀選手、西谷咲柚選手、沖佳織選手、福部真子選手



第68回国民体育大会 / 第13回全国障害者スポーツ大会

東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート

スポーツ祭東京2013

54年ぶりの開催! 7年後の東京オリンピックが決まり、諸機関がその準備に必要な資料収集も兼ねた大会となり、ゆったりとした立派な会場と警備面の厳しさが目立つ大会だった。

東京国体 健闘も今後に期待!

強化委員長 中野 繁



福部選手からのメッセージ

今年の国体はインターハイで達成できなかった高校新記録を塗り替えることを目標に挑みました。その結果、優勝することはできませんでしたが、高校新記録樹立は達成できませんでした。しかし、広島の皆さんの暖かい応援のおかげで、去年の故障から復帰でき広島県に貢献できました。感謝しています。来年度から大学に進学するというので広島を離れることとなりますが、冬季練習をしっかり積み、感動を与えられるようなレースができるよう頑張りますので引き続き応援の方よろしくをお願いします。

平成25年秋の叙勲『旭日双光章』を受章
広島陸協副会長 三宅 勝次(70歳)

教員・役員の立場で育成

「オールラウンドプレイヤーだ」と自負するほど、指導者や競技役員として陸上界に貢献してきた。高校教諭から50歳で広島経済大学の教員に。「強化と普及をくまなくできるようになった」と、大学への感謝は尽きない、女子100m障害の木村文子選手(エディオン)たち指導した3人が五輪に出場。1996年に始まった全国都道府県対抗男子駅伝競走大会では98年まで審判長を務めた。現在は広島陸協副会長として支える。

1964年の東京五輪で補助員を務めた。学生時代のその経験が指導者の原点にもなっている。「2020年の東京五輪に向け、強化や運営スタッフ育成の基礎固めをする。最後のご奉仕」。情熱を注ぎ続ける。

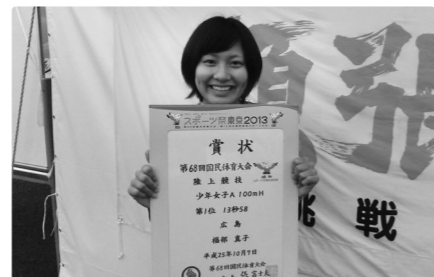
中国新聞11月3日掲載記事

October
10/7
Mon
4日目

福部、余裕の優勝、でも…

この日は、広島県選手の出場数が最低の4名で少年のみ。女子ハンマー投はあと一歩及ばず、男子B3000mは順当に明日の決勝へ残ることができた。

女子100mH福部(広島皆実高)はインターハイ3連覇、昨年はインターハイ後体調を崩し、国体で勝つことができず、今年に期したものが感じられた。予選から余裕の走り、あとは高校記録を狙うのみ。決勝は後半走りが堅くなってしまい優勝はできなかったが、記録的に不満を残す形となった。



▲福部真子選手



▲表彰式での福部真子選手(左)

最終日
中国5県トップで終わる

October
10/8
Tue
5日目

広島県選手で残っているのが2名。男子B3000m新迫(世羅高)は積極的なレースで途中引っ張り、最後2名の選手に抜け出され3位。この種目東京の選手が優勝し、静岡県との接戦を制し東京の総合優勝がやっと決まり、地元は大喜びしていた。

総合得点39点だったが、それでも中国5県ではトップをとることができた。

最後に、今年の国体は出場予定選手の相次ぐケガ・故障により種目・選手に多くの変更が出た。庶務を努めてくれた野崎先生(広島井口高)のご苦勞に感謝この場を借りて御礼しておきます。特に成年選手の得点源となる選手の欠場が獲得得点の減少に直接つながってしまった。来年は一部種目も変わるが、少年の強化を図り、総合入賞を目指して強化していきたい。



▲新迫志希選手

Time Another Report

年代別レポート

小体連

5月の各都市予選を経た612名の選手が出場した7月の県予選。そこで1位になった14種目22名が、広島県選手団を結成し、第29回全国小学生陸上競技交流大会(神奈川県・日産スタジアム8月23・24日)に出場した。県代表に決まった時から、「チーム広島」を合言葉に、競技力もマネーも県代表として誇れる集団となるように努力した。

結果は、竹尋ACの仁平優くんが男子走幅跳4位入賞、準決勝進出3、自己ベスト記録5というものでした。その中で選手は様々なことを感じ、学ぶことができた。今年の県代表練習会では、広島皆実高等学校で、現役高校生に指導していただくこともできました。広島陸協関係者の皆様を始め、関わってくださった方々には、様々なご支援をいただきありがとうございました。

また、この全国大会が行われていた8月24日には、広島で全国大会の予選が行われていた。第16回全国小学生クロスカントリーリレーの広島県予選である。今年度より全国大会が12月開催(昨年までは3月開催)となったため、予選会が夏場に行われることになった。

結果は「熊野陸上スポーツ少年団」が接戦を勝ち抜き、見事代表の栄誉を勝ち取った。

皆様、今後とも小学生への陸上競技普及に対して、ご指導・ご協力のほどよろしくお願ひします。

海田小学校 石川 和明



中体連

今年の中学生の競技結果を振り返ると、1月の男子都道府県対抗駅伝では第2区の新迫志希君(志和中、現世羅高)が区間新記録で走りジュニアB優秀賞を獲得。同じく中学生区間の第5区では吉田圭太君(高屋中)が2年生ながら区間トップと7秒差の第5位で走り広島チーム入賞に貢献した。

全中は愛知県名古屋で行われた。今年も長距離種目に多くの標準記録突破者が参加。男子3000mに10名、1500mに4名、女子1500mには5名、800mには男女1名ずつが参加した。入賞は3000mの吉田君が第5位、女子800mでは池崎愛里さん(玖波中)が5位と2名の入賞者が出た。決勝レースまで進んだ選手が3名だけであったのは残念である。その他の種目では男子110mHの富山弘貴君(高美が丘中)が第8位、男子棒高跳の岡本崇志君(井口中)が第8位に入賞をした。全中参加の個人33種目の内、フィールド種目参加者が3名(3種目)なのは今後の強化において課題である。

8月の中国大会ではこれまで20年続いていた男子総合優勝が途絶えた。また、男女総合優勝も2年連続で岡山県に奪われていた。男女とも全種目に入賞者を出すことはできているが、優勝者は2名しかいなかったこと、1種目に複数入賞する種目が減っていることが今年の大きな課題として残った。

10月のジュニアオリンピックでは今年活躍した吉田君が3000mで第2位、富山君が110mYH(ユースハードル)で第2位、梅田夏季さん(五日市中)が走幅跳で第8位に入賞した。今年はなかなか全国の頂点に立つことはできなかったが、この悔しさを今後の競技生活に活かして活躍して欲しい。

今年も献身的に情熱を持って指導して下さった顧問や指導者の方々、ジュニア強化を支援して下さる広島陸上競技協会に大変感謝している。

広島県中体連 陸上競技部 専門委員長 濱村 祥水

高体連

2013年度高校生の活躍

夏から秋のシーズン、そして駅伝の季節となった。インターハイ以降の全国大会入賞者は次のとおりである。

●東京国体

- ◎少年男子A走幅跳
7位 廣田 雄大 (広島井口) 7m28(+0.8)
- ◎少年男子B200m
5位 野田 悠斗 (盈進) 21秒99(-1.0)
- ◎少年男子B3000m
3位 新迫 志希 (世羅) 8分27秒40
- ◎少年女子A100mH
優勝 福部 真子 (広島皆実) 13秒58(+1.4)
- ◎少年女子B1500m
5位 小吉川志乃舞 (世羅) 4分24秒97

●日本ジュニア選手権

- ◎男子400mH
2位 平戸木公太 (油木) 52秒47
- ◎女子100mH
2位 福部 真子 (広島皆実) 13秒78(+0.1)

●日本ユース選手権

- ◎女子400mH
7位 小山田みなみ (高陽東) 1分02秒51
福部選手はインターハイと合わせて全国大会2試合で優勝。また、平戸木選手も日本ジュニア2位入賞という強さを見せてくれた。来年度に向け、1・2年生はよき目標としてもらいたい。

また、駅伝シーズンにも突入り、本年度も世羅高校が男女とも広島県代表となった。特に男子は都道府県大会2位の記録をたたき出した。また中国高校駅伝でも大幅に記録を更新。優勝争いに名乗りを上げてくれた。

●県高校駅伝

- ◎男子優勝 2時間06分17秒
世羅(貞永、城西、ガザイヤ、新迫、山口竜、田中、中島)
- ◎女子優勝 1時間11分56秒
世羅(小吉川、浅田、背戸、長尾、土井)

●中国高校駅伝

- ◎男子優勝 2時間05分48秒
世羅(笠井、山口和、カマシ、工藤、東、井上、植村)
- 広島県高等学校体育連盟陸上競技部競技力向上委員長 広島県立広島皆実高等学校 樋口 裕志

この冬が勝負

日本スプリント学会の大会に参加してみた。今年のワークショップはジャマイカのスプリントコーチJarmaine Shand氏が江里口選手、桐生選手、福島選手をデモンストラーターにジャマイカのスプリントテクニック指導を行うというもので、多数の来場者があった。この大会の中で、一般発表というものがある。いろんな角度から短距離走を科学しているのだが、小笠原隆夫氏の「北部九州インターハイ男子400mH競技におけるS.B.(シーズンベスト)記録から決勝への相対的記録の推移」という発表の中の一言に目とまった。それは「過去のインターハイと最近のインターハイのS.B.を比較すると、近年のインターハイは過去に比べ平均S.B.に近い選手が増えており、より競争が激化している」というものだった。今年の大分インターハイを観て、決勝進出記録のレベルの高さに、来年度、広島県の選手は戦えるのかと危機感を感じていたところだったから余計に反応した。この発表を参考に、早速広島県の選手データも比較してみた。すると種目に偏りはあるものの、やはり平均S.B.に近くなっていた。インターハイへは勝ち残り進んでいく。短距離種目は地区予選からインターハイ決勝を入れるとおおよそ12本走る。いくら良い記録を出しても6位に入らなければ上位大会へは進むことができない。予選から決勝ラウンドに進む際にも記録よりも強さである。データも示しているとおり、あと少しの粘りと強さが決勝へつながる。高校生諸君にはこの冬じっくり鍛錬し、粘りと強さを身につけてほしい。

広島皆実高校 松谷 清志

学生連盟

学連1年間を振り返って

まずは、6月1日に広島県実業団・広島県学生陸上競技選手権大会が行われた。その中で、3つの大会新記録が誕生した。1つ目が男子5000mでマツダのアッパイン・アイエレンさん。2つ目が女子1500mでエデュオンの前原未来さん。3つ目が女子やり投げで広島大学の綾里奈さん。



以上3名の素晴らしい大会記録が誕生した。

また、どの種目にも参加して下さった多くの選手の皆様方・大会のサポートを下さった庄原陸協の方々のおかげで、ごその試合運営であり何事もなくなることであったことに、感謝したい。

次に、9月14日に広島県学連競技会を開催した。この試合は6月の試合とは違い参加者が少ない中での、開催で寂しいところもあったが、参加して下さった選手のみならず大会を大いに盛り上げ、6月の大会より速く走っている選手がいたので、主催してよかったと思えた。選手たちが全力で記録を狙い、争っている姿に感動した。また役員の方々、そして各大学の学生役員の方もあり、6月の試合と同様に無事に終わることができた。

最後に、9月23日に道後山で全日本大学駅伝の予選会が行われた。この試合は、広島大学の中国四国学生連盟

の方々協力し、大会を運営した。大会当日、寒い天候の中、気迫あふれる選手の走りに魅了されてる人たちがいた。個人1位は広島修道大学の妹尾良平さん。団体では男子が広島大学、女子は松山大学が全日本大学駅伝の参加切符を手に入れた。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部 幹事長 広島修道大学 中川 瞬

実業団連盟

9月20日(金)～22日(日)、第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会が、埼玉県熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催された。当連盟所属選手では、男子5000mでチャールズ・ディランゴ選手(JFEスチール)が昨年に続き第2位になったのをはじめ、3種目で男子4選手が入賞した。



広島県実業団駅伝スタートの模様

駅伝では、10月27日(日)に第51回広島県実業団駅伝競走大会が、岡山県笠岡陸上競技場発着で行なわれた。同大会は岡山県社会人対抗駅伝と同時に開催しており、大会には広島・岡山から計28チームが出場。広島県実業団駅伝は、中国電力が2年ぶり16回目の優勝を手にした。また2部では、広島市役所Aが第2位に入り広島県勢最高順位となった。また、11月17日(日)には中国実業団対抗駅伝競走大会が、世羅町世羅高校発着で開催され、終盤まで中国電力、マツダ、JFEスチールが接戦を繰り広げ、中国電力がJ7連覇を達成した。

この結果、来年元旦に群馬県で開催される第58回全日本実業団対抗駅伝競走大会に、中国電力、マツダ、JFEスチール、中電工の4チームの出場が決定した。

今シーズンの駅伝・マラソンでの実業団選手の更なる飛躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局 JFEスチール 山下 里恵

マスターズ連盟

マスターズの活躍! 2013年を振り返って

6月の県選手権大会(びんご)、中国大会(山口維新)、全国大会(佐賀)、そして国際マスターズ大会(京都・西京極)と続いたラックシーズンも終わった。



国際ゴールドマスターズ陸上W-60 200m 自己新で優勝した長崎ひなこ選手

改装後の「びんご」や「山口維新公園」の競技場では酷暑の中、多くの広島県選手が大会記録、県記録を達成した。(記録は広島マスターズ陸上HPに掲載)

久しぶりの九州佐賀での開催となった全国大会、そして西京極陸上競技場でも全国のランナー・競技者と再会し、お互いの健康を称え会話を楽しむ事ができた。

特に西京極陸上競技場は駅伝の聖地、男女高校駅伝に始まり都道府県対抗女子駅伝とここから巣立って行った「マスターズのランナー」も多く、感慨深い思いでトラックに立たれた事だろう。

このようにマスターズ陸上は、アスリートが青春の思い出や、為し得なかったかつての目標に再チャレンジできる組織・大会でもある。

これからのロードシーズンでは駅伝大会(中国(鳥取)、そして全国(東京・三鷹))大会へ向けて仲間の皆さんが練習に励んでいる。

広島マスターズ陸上では過去の競技成績に関係なく、生涯楽しく同年代の人々と競技ができ、しかも5歳刻みであるため、5年毎にクラス別の最若手となって記録更新・上位入賞のチャンスを得られる。県選手権、中国選手権大会では男子30歳から、女子は25歳から参加でき、気楽に多くの競技種目に参加が可能だ。

多くの陸上競技愛好者が競技志向、健康管理そして仲間作りの機会にと「青春再び」の心地よい汗を流したシーズンだった。

マスターズ陸上のもう一つの顔としては、県内のほとんどの陸上大会に役員・審判として皆さんの皆さんが育成、支える立場で参画している事だ。更にジュニアの参加にも力を注ぎ正に「支える」「育てる」「する」の3拍子揃った陸上競技ライフに参与している。

2013年を振り返って、マスターズ陸上への1年間のご協力感謝申し上げます。

広島マスターズ陸上 広報 前田 征四郎

叙勲・褒章

旭日双光章 三宅 勝次(副会長)
旭日双光章 中岡 恵美子(三次陸協会長)
藍綬褒章 野坂 文雄(監事)

文部科学大臣表彰(生涯スポーツ功労者)

河野 裕二(競技運営副委員長)

公益財団法人日本陸上競技連盟栄章

高校優秀指導者章 日浦 泰志(県立広島高校教諭)
中学優秀指導者章 水田 孝(八本松中学校教諭)
高校優秀選手章 高山 峻野(広島工大高校→明治大学)
中学優秀選手章 新迫 志希(志和中学校→世羅高校)
勲功章 西塔 拓己(東洋大学)
競技者育成章 秋山 定之(県立広島商業高校教諭)
競技者育成章 高橋 和則(東広島市陸上競技協会)
安藤百福記念章 竹内 史雄(八本松小学校教諭)

公益財団法人広島県体育協会体育賞

【功労者の部】

●松崎 親男(広島陸協)
●上村 頼彰(府中市)

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

【功労章】

●内河 利見(呉市)
●國沖 傑(東広島市)
●平田 徹(安芸郡)
●佐古 辰己(庄原市)
●川本 秀樹(竹原市)
●重森 博己(府中市)
●田中 隆宏(佐伯陸上競技クラブ)

公益財団法人広島県体育協会体育賞
一般財団法人広島陸上競技協会表彰

【優秀選手賞】

〈国際大会の部〉

●木村 文子(エディオン)
第20回アジア陸上競技選手権大会
(7月5日・インド ブネー)
女子100mH 13秒25 優勝
●山縣 亮太(慶應義塾大学)
第27回ユニバーシアード競技大会
(7月8日・ロシア カザン)
男子100m 10秒21 2位
第6回東アジア選手権大会
(10月8日・中国 天津)
男子100m 10秒31 2位
男子4×100mR 38秒44 優勝
(山縣亮太、飯塚翔太、ケンブリッジ飛鳥、大瀬戸一馬)
●西塔 拓己(東洋大学)
第14回世界陸上競技選手権大会
(8月11日・モスクワ)
男子20km競歩 1時間22分09秒50 6位

〈個人の部〉

●新迫 志希(志和中学校)
第18回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会
(1月20日・広島)
第2区 3km 8分29秒
●福部 真子(広島皆実高校)
2013日本・中華台北交流ジュニア室内陸上競技大会大阪
(2月2日・大阪)
女子60mH 8秒57
2013日本ジュニア室内陸上競技大会大阪大会
(2月2日・大阪)
女子60mH 8秒44
第66回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(8月3日・大分)
女子100mH 13秒57
●チャールズ ディランゴ(JFEスチール)
第48回千葉国際クロスカントリー大会
(2月10日・千葉)
一般男子12km 35分01秒
第27回福岡国際クロスカントリー大会
(2月23日・福岡)
一般男子10km 29分47秒
●山縣 亮太(慶應義塾大学)
第97回日本陸上競技選手権大会
(6月8日・味の素スタジアム)
男子100m 10秒11
●荒井 悦加(エディオン)
第97回日本陸上競技選手権大会
(6月9日・味の素スタジアム)
女子3000mSC 9分58秒22
●岡山 沙英子(広島JOC)
第97回日本陸上競技選手権大会
(6月9日・味の素スタジアム)
女子走幅跳 6m59
●渡辺 裕子(エディオン)
2013北海道マラソン
(8月25日・札幌)
マラソン 2時間29分13秒
●西塔 拓己(東洋大学)
第82回日本学生陸上競技対校選手権大会
(9月6日・国立)
男子10000mW 40分20秒18
●佐藤 芳美(鶴学園クラブ)
第61回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
(9月21日・熊谷)
女子走幅跳 6m01

〈第68回国民体育大会優勝および入賞の部〉

[1位] ●西塔 拓己(東洋大学)
成年男子10000mW 40分02秒25
●福部 真子(広島皆実高校)
少年女子A100mH 13秒58
[3位] ●池田 康雄(TEAM BIG STONE)
成年男子やり投 71m89

●新迫 志希(世羅高校)
少年男子B3000m 8分27秒40
[5位] ●野田 悠斗(盈進高校)
少年男子B200m 21秒99
●小吉川 志乃舞(世羅高校)
少年女子B1500m 4分24秒97
[7位] ●廣田 雄大(広島井口高校)
少年男子A走幅跳 7m28
[8位] ●渡邊 茜(九州共立大学)
成年女子ハンマー投 55m87

一般財団法人広島陸上競技協会表彰

【新記録賞】

【県高校記録】

●福部 真子(広島皆実高校)
女子100mH13秒57
第66回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(8月3日・大分)

【県記録】

●山本 智貴(日本体育大学)
男子棒高跳 5m40
第20回市原市ナイター記録会
(7月14日・市原)
●西塔 拓己(東洋大学)
男子10000mW 40分02秒25
第68回国民体育大会
(10月7日・味の素スタジアム)
男子20kmW 1時間20分05秒
第96回日本陸上競技選手権大会
(2月17日・神戸)
●大本 宗範(広島経済大学)
男子3000mW 12分39秒85
第20回ひろしま県中央競歩大会
(11月24日・東広島)
●木村 文子(エディオン)
女子100mH 13秒03
第97回日本陸上競技選手権大会
(6月8日・味の素スタジアム)
●渡邊 裕子(エディオン)
女子マラソン 2時間25分56秒
2013大阪国際女子マラソン
(1月27日・長居)
●岡山 沙英子(ポスアル)
女子200m 24秒23
ビーチクラシック
(3月2日・セリトスカレッジ)
女子走幅跳 6m59
第97回日本陸上競技選手権大会
(6月7日・味の素スタジアム)

【特別賞】

●爲末 大(CHASKI)

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成
協力企業

●株式会社サタケ
●広島駅弁当株式会社
●株式会社広島銀行
●広島ガス株式会社
●株式会社イズミ

●旭化成株式会社
●広島電鉄株式会社
●学校法人石田学園
●株式会社中電工
●株式会社もみじ銀行

●広島総合警備保障株式会社
●有限会社ニシヒロ
●アシックス販売株式会社
●有限会社道後山高原サービス
●ひば・道後山高原荘

●株式会社体育社
●中国電力株式会社

(順不同)